能登町総合計画基本構想(案)に対するパブリックコメント募集の結果

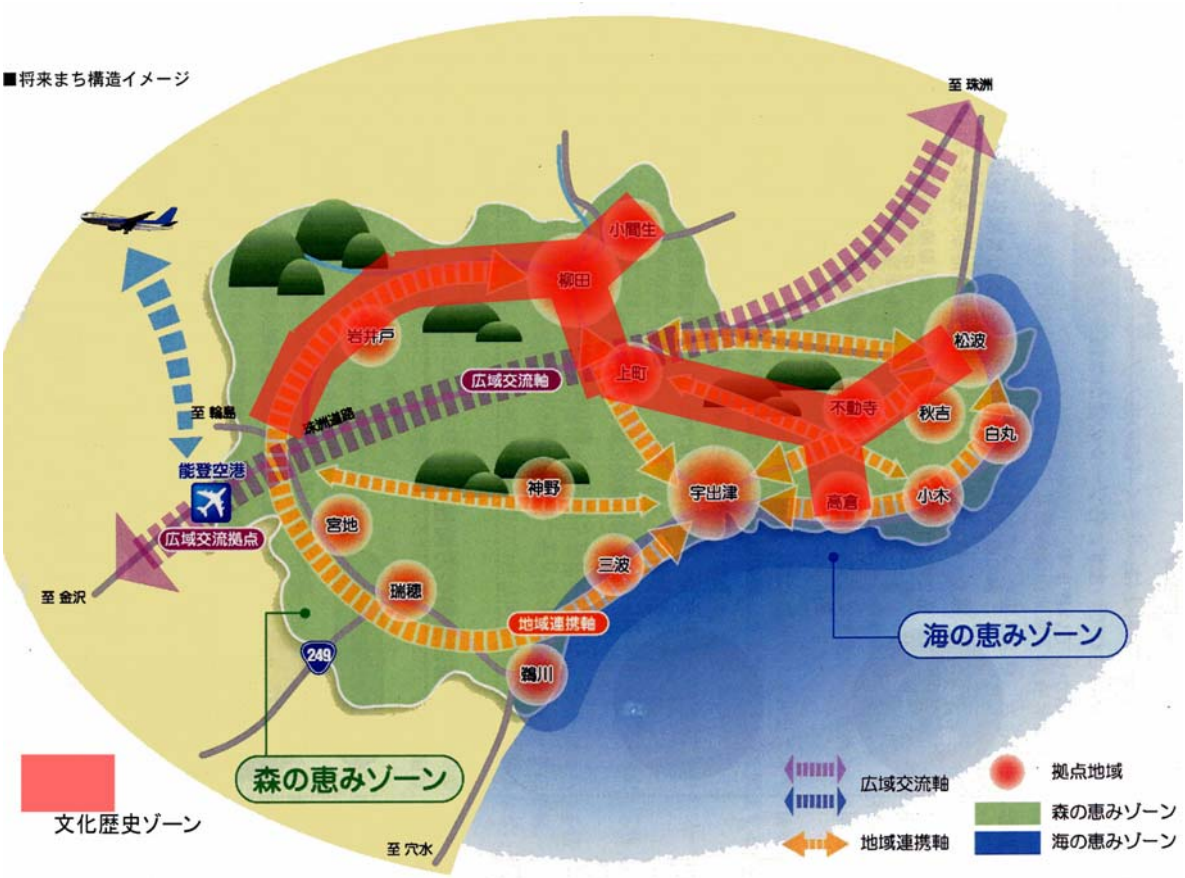
〇募集期間：平成 18 年 5 月 1 日（月）から平成 18 年 5 月 22 日（月）

〇寄せられたご意見：１件（内容により以下の 4 件に区切って回答）

ご　意　見	意見に対する町の考え
「能登町の課題」の三項目目で「歴史文化」と「自然」という二大資源の再認識と活用を強調しているにも拘わらず、「各地域の方向性」では「海の恵みゾーン」と「森の恵みゾーン」という地理的要素による二つに集約され、「歴史文化」という要素が抜け落ちていることに大きな矛盾を感ずる。 第三のゾーンとして「文化歴史ゾーン」を別添のとおり提案する。	歴史文化は重要な要素であるものの、地域毎に育まれてきた傾向が強く、別添の案のように、ゾーンとして結びつけると、必ずしも歴史文化だけを特筆するに相応しくない地域も含まれ、またゾーンに含まれない地域は歴史文化がないという誤解も招きかねません。 町としてゾーン指定はしませんが、体験観光モデルコースなどを設定する際に、歴史文化がコースの１テーマになることは十分考えられます。 地域住民の意識啓発を図り、地域毎や地域間が連携する自主的な取り組みを促進していきたいと考えます。
「施策の大綱」では、【生活基盤】の観点から「歴史・文化的な公園…の整備、充実」とあり、【産業振興】では「自然や歴史・文化資源を体感する観光…を推進」、【教育・文化】では「地域文化…の保存・継承を推進」とある。 これをそれぞれの担当課が各々の考えで実行して行くとき、ある場合には他の課から見たときに、その価値を低めているといったことが生じ兼ねず、特に「推進」の大儀のもとに新規に箱物を造るときには十分な注意が払われなければならないと思う。 よって「歴史文化と自然」の分野に限っては、これらの課を包含した独立したセクションを設けて、そこを通して行なうことを提案する。特に、そこでの評価を担当する者にはこの分野での強い熱意と見識を有する者を当てるべきであると思う。	行政改革大綱のもと、職員の定員適正化や組織の再編を目指している中で、独立したセクションの設置は困難であり、各々の職員の資質と意識の向上を図っていくことを基本に考えています。 基本構想の中でいくつかの重点プロジェクトを設定し、それらについては各課横断的なプロジェクトチームを編成し推進していきたいと考えます。

ご　意　見	意見に対する町の考え
「能登町の課題」三項目目の「歴史文化や自然を活かした観光資源」を「再認識して保存継承を図る」という点についてであるが、これについての行政の熱意は高いとは言えない。 「基本目標」に「住民一人ひとりが主体となって、…知恵を出し合い、そして実行に移していく」姿勢が提唱されているが、提唱するからには、実効性あるそうした活動にはそれ相当のバックアップも当然すべきと考える。 施設整備はエンデバーファンド21などの助成金を活用するとしても、収益性のない物であれば年間維持費(人件費はボランティア)のいくばくかの補助を願う。	住民主体による地域づくり活動に対しては、自主・自立性を損なわないよう側面支援していきたいと考えます。 公益信託能登町エンデバーファンド 21 は、地域づくりへの新たな挑戦を応援する主旨の制度であり、光熱費等の諸経費については、これからも助成を決定した年度に限るものとします。
「基本目標」の「住民一人一人が主体となって、…知恵を出し合い、そして実行に移していく」についてであるが、この実行にあたり、NPO との関わりを明確にしてほしい。 石川地域づくり協会の機関紙「My Page」VOL17 で地域づくりコーディネーター赤須治郎氏は、「NPO への事業委託は財政的収支バランスを取る上で、経費節減効果はないが、人と人とが関わることで新たな関係が生まれ、そこに期待がある」との鹿児島の某村長の意見を紹介し、その価値を明らかにしている。 町の遊休施設の活用方法に関するアイデア募集はもちろん、その運用についても、NPO の活用により新しい可能性の展開を目指すことをお願いする。	ＮＰＯやボランティア活動については、行政としても団体間の交流や活動の支援体制の整備を図っていきます。 また、指定管理者制度の導入も進めていく予定です。

（別添）


■将来まち構造イメージ
至 珠洲
小間生
柳田
岩井戸
上町
広域交流軸
松波
不動寺
秋吉
白丸
至 輪島
珠洲道路
能登空港
神野
宇出津
高倉
小木
広域交流拠点
宮地
三波
至 金沢
瑞穂
地域連携軸
249
鵜川
海の恵みゾーン
森の恵みゾーン
文化歴史ゾーン
至 穴水
広域交流軸
地域連携軸
拠点地域
森の恵みゾーン
海の恵みゾーン